

愛知県環境影響評価審査会会議録

- 1 日時 平成28年11月28日（月）午前10時から午前11時20分まで
- 2 場所 愛知県議会議事堂 5階 大会議室
- 3 議事
 - (1) 知多都市計画ごみ処理場（一般廃棄物処理施設）西知多医療厚生組合ごみ処理施設（仮称）整備事業に係る環境影響評価方法書について
 - (2) その他
- 4 出席者
委員15名、説明のために出席した職員11名、都市計画決定権者及び事業者8名
- 5 傍聴人
1名、報道関係者1名
- 6 会議内容
 - (1) 開会
 - (2) 議事
 - ア 知多都市計画ごみ処理場（一般廃棄物処理施設）西知多医療厚生組合ごみ処理施設（仮称）整備事業に係る環境影響評価方法書について
 - ・ 会議録の署名について、大東会長が那須委員と山田委員を指名した。
 - ・ 知多都市計画ごみ処理場（一般廃棄物処理施設）西知多医療厚生組合ごみ処理施設（仮称）整備事業に係る環境影響評価方法書について、別紙1のとおり諮問を受けた。
 - ・ 資料1及び2について、事務局から説明があった。

<質疑応答>

- 【片山委員】方法書177ページでは、大気汚染に次いで騒音の苦情が多い。道路で騒音調査を行うと説明があったが、施設の稼働に伴う騒音についてはどうか。
- 【事務局】方法書208ページにあるとおり施設からの騒音についても調査・予測・評価を行うこととしている。
- 【那須委員】方法書39ページによると当該地域は光化学オキシダントの濃度が高いが、その原因は何か。環境影響評価の選定項目の大気質に光化学オキシダントがないのはなぜか。微小粒子状物質も高いがその原因は何か。
- 【事務局】方法書38ページにあるとおり、光化学オキシダント濃度が高いのは、当該地域特有の傾向ではなく、全国的な傾向である。

光化学オキシダントは、工場や自動車からの排ガス中の窒素酸化物やVOC等の一次汚染物質が光化学反応により二次汚染物質となったものである。

事業者には排ガス中の一次汚染物質の削減対策に努めるよう求めている。

また、二次汚染物質の反応機構が解明されておらず、予測手法が確立していないことから、環境影響評価の項目に選定していない。

微小粒子状物質は、越境汚染等の問題もあり高い濃度となっている。こちらも予測の手法が確立していないため、環境影響評価の項目に選定していない。

【大石委員】廃棄物運搬車両は、方法書 231 ページの敷地のどこから入るのか。この辺りに住居はないのか。

【事務局】事業実施区域周辺は工業専用地帯であり、北側には発電所、南側には製造業の事業場が立地している。車両は地点 1-3 の付近から進入する。

【中村委員】東海市と知多市から広域的に廃棄物運搬車両が集まる。どのくらいの台数がどこを何時頃通過するのかを整理した上で、それに伴う交通量の負荷、主要な交差点での渋滞や大気汚染の予測・評価は行われるのか。

【事務局】施設が稼働する平成 36 年度のごみ量を踏まえた予測車両台数を算出し、これを一般交通量に加算して予測を行う。現状の台数については、事業者から説明させる。

【事業者】現在の知多市清掃センターへの搬入車両台数は、約 280 台/日、約 55 台/時間である。東海市清掃センターへの搬入車両台数は、約 200 台/日、約 40 台/時間である。新施設では東海市分の車両台数が増加することとなる。

なお、現状の西知多道路の道路交通センサスの交通量と比較すると、時間当たり約 1.5%程度である。

【中村委員】1.5%は昼間 12 時間平均だと思われるが、ごみ収集車の搬入が等間隔か集中するのかにもよる。西知多産業道路が問題なかったとしても、近隣の交差点のほうが問題である。ごみ収集車が通過する交差点の現状がどうなのか。準備書ではピークの時間帯で評価していただきたい。

【事務局】今後の調査の段階で検討させていく。

【田代委員】要約書の 8 ページで、旧施設はどのあたりに設置されていたのか。

【事業者】地点 1-7 の北側の点線に囲まれた部分で、現在駐車場として利用されている。

【田代委員】土壌、地下水の調査地点 1-7 は、旧施設のあった点線内のほうが良いのではないか。現施設はアセスの対象であったか。

【事業者】現施設は 130 t/日の処理能力のため、アセス対象規模未満であったが、生活環境影響調査は行っている。

【田代委員】当時、土壌は問題とならなかったか。

- 【事業者】 土壌は対象となっていない。
- 【田代委員】 要約書の9ページで、植物や昆虫の調査地点が新施設の東側に設定されているが、厚い砂層があるため、地下水が周辺に影響を与える。地下水の流向を調査しているか。地下水の流れを考えて植物や昆虫の調査地点を選定したのか。
- 【事業者】 今後の地下水調査の中で流向を把握する。植物や昆虫の調査地点は緑地の配置状況を勘案して設定している。
- 【田代委員】 地下水の流れを把握されたい。
また、処理能力に災害廃棄物処理分を加算しているが、災害時に施設が稼働するよう盛土や基礎などについて具体的に検討されているか。
- 【事業者】 今後策定するごみ処理施設整備基本計画の中で、プラントメーカーの意見も聴取しながら検討していく。現段階では具体的な計画には至っていない。
- 【田代委員】 対策によって、環境影響が変われば、準備書以降、反映されたい。
- 【山田委員】 方法書 253 ページの植物調査を行う南側の地点には小川があるのか。湿地帯であれば、昆虫の調査が必要ではないか。
- 【事務局】 湿地ではないと思われるが、隣接企業の土地であるため、確認して次回お示しする。
- 【武田委員】 土壌調査地点に地点 1-7 を選定した理由は何か。旧施設跡地に建設することのだが、どういう影響を見るのか。掘削による影響なのか、表土への沈着なのか。調査深度が示されていない。
- 【事務局】 掘削による影響を見るために行う。地点 1-7 は旧施設跡地近傍の掘削可能な裸地である。深さは決まってないが通常はピットの深さなどで行う。深度方向について審査会の意見としていく。
- 【片山委員】 要約書 6 ページで、悪臭について夏季に 1 回測定とあるが、1 回測定であるため、いつ測定するかが大事。24 時間のどの時間帯か。複数回調査してはどうか。方法書 177 ページでは、悪臭の苦情が多い。夏だけではなく、6～9 月の間で、廃棄物運搬車が多い時期かどうかなども勘案したほうが良い。
- 【事務局】 方法書 177 ページの悪臭の苦情は東海市、知多市全域における苦情であり、現知多市清掃センターに係る苦情はない。適切な時間帯で調査を行うよう事業者伝えて行く。
- 【橋本委員】 方法書 249 ページに、哺乳類は目撃法、フィールドサイン法、トラップ法とあるが、入口の樹林帯には進入路があり、車両が走行する。道路を横断する哺乳類を調査する必要があるのではないか。自動撮影のカメラでの調査が必要ではないか。
- 【事務局】 委員の御指摘については事業者伝えていく。
- 【大石委員】 処理場への進入だが、ゲートが手前だと車両が道路にはみ出す。行列を収容できるだけのスペースを確保していただきたい。

【事務局】現時点で構内のレイアウトは決まっていない。御意見を踏まえ車両が道路に溢れないようなレイアウトを考えるよう事業者伝えていきたい。

【大東会長】方法書 69 ページの地質の断面図について、ここは伊勢湾台風以降に埋め立てられた工業地帯である。伊勢湾台風以前の地盤と伊勢湾台風以降に埋め立てられた地盤の境界がわかると良い。上部に粘土層があるが、厚さが変化している。沖積の粘土層に見えるが、実際は埋立の粘性土ではないか。下部の粘土層は、上部粘土層ではないので、凡例の書き方も問題がある。自然堆積した地盤と人工的に埋めた地盤の違い、さらには表層の造成による盛土がわかるようにされたい。柱状図には、凡例以外の地質もあるため、これらもわかるような凡例にされたい。

また、旧施設のピットの深さもわかるとよい。

地下水の調査だが、②の地点は粘土層の上に溜まった地下水であり、①の地点は砂層の下の地下水である。表層付近の地下水といっても別のものを測定する可能性があるので、注意して調査していただきたい。

【事務局】地盤の境界などについては、次回お示ししたい。

地下水については、注意して測定するよう事業者伝えていきたい。

- ・ 知多都市計画ごみ処理場（一般廃棄物処理施設）西知多医療厚生組合ごみ処理施設（仮称）整備事業に係る環境影響評価方法書について審査させるため、大東会長の指名により、別紙2のとおり西知多ごみ処理施設部会を設置した。

イ その他

- ・ 特になし。

(3) 閉会

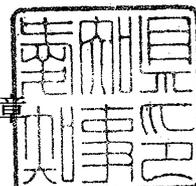
28環活第231-6号

平成28年11月28日

愛知県環境影響評価審査会

会長 大東 憲二 様

愛知県知事 大村 秀章



知多都市計画ごみ処理場（一般廃棄物処理施設）西知多医療厚生組合
ごみ処理施設（仮称）整備事業に係る環境影響評価方法書について（諮問）

このことについて、愛知県環境影響評価条例（平成10年愛知県条例第47号）第
10条第4項の規定に基づき、貴審査会の環境の保全の見地からの意見を求めます。

担当 環境部環境活動推進課
環境影響評価グループ
電話 052-954-6211（ダイヤルイン）

愛知県環境影響評価審査会 西知多ごみ処理施設部会構成員

委員名	所属等
いくた きょうこ 生田 京子	名城大学理工学部准教授
おおいし やさき 大石 弥幸	大同大学情報学部教授
かたやま なおみ 片山 直美	名古屋女子大学家政学部教授
さかまき ふみお 酒巻 史郎	名城大学理工学部教授
たしろ むつみ 田代 むつみ	名古屋大学未来社会創造機構特任講師
とみた ひさよ 富田 寿代	鈴鹿大学国際人間科学部教授
なかがわ みちこ 中川 弥智子	名古屋大学大学院生命農学研究科准教授
なす たみえ 那須 民江	中部大学生命健康科学部教授
にのみや よしひこ 二宮 善彦	中部大学工学部教授
はしもと ひろし 橋本 啓史	名城大学農学部准教授
やまだ よしひろ 山田 佳廣	三重大学大学院生物資源学研究科教授

(敬称略、五十音順)